

鷲峰山こんたいじ金胎寺わつかがうのうちほらやまむらは和束郷内原村山の巔がうのくちにあり。〔宇治田原郷口より一里半、大道寺村だいだうじより三十六町なり、一町毎に標

石あり〕天武天皇てんむの御宇白鳳四年九月に、役優婆塞えんのうばそく此山ここの山に來り、天然てんちくの靈鷲山りやうじゆせんをうつし、八つの嶺は八葉の蓮華に表し、

釈迦嶽しゃかがだけ、阿弥陀嶽あみだが、弥勒嶽みつが、宝生嶽ほうしやうがだけ、阿■嶽あしゆく、虚空藏嶽こくざう、不空嶽ふくう、妓樂嶽ぎがくだけと号し、巖頭に坐して修法する事五七日な

り。是当山の開基とす。其後元正帝げんしやうていの御宇養老六年に、越こしの白山しらやまの行者泰澄法師ぎやうじやたいちよう、役芳跡えんのほうせきを慕ふて登山し、七堂伽藍を

造営す。〔後世に及んで荒廢し、今諸堂纔に存せり〕

宗旨は真言にして、本堂には彌勒仏を本尊とす。〔行基ぎやうきの作なり〕多宝塔たほうたふには愛染明王あいぜんみやうわうを安置す。〔伏見院ふしみのあんの御建立にし

て、行幸の時行宮の旧跡虚空藏嶽こくざうがだけにあり〕開山堂には自作えんのぎやうじやの役行者の像を安置す。〔傍に前鬼後鬼あり〕金剛童子社こんがうどうじのやしろ

〔当山の鎮守なり〕鎮守石ちんじゆせきには日本金柱かなばしら福満権現ふくまんこんげん、八幡宮はちまんぐう、金剛童子を勸請す。空鉢峯くうはちのみねは当山の絶頂なり、宝篋ほうきやう印塔いんたふを

建る、是北斗星の拜所なり。泰澄たいちようはふし法師此所において修法の時、石上に坐しながら虚空に鉢を投らるゝに、忽鉢雲中に飛、

施物の米穀を入れて又こゝに帰る、泰澄たいちよう入寂の後鉢を此地に埋て、空鉢峯くうはちのみねとなづけしなり。〔世に變ある時は此所鳴動す

るとなり〕

当山東の山腹は役行者えんのぎやうじや泰澄たいちようの二師密法修行の靈嶽なり。〔和州金峯山わしんきんぶせんに準じて登山の輩此地を巡拜しける、俗にこれ

を行場といふ〕池多輪ちたりん、東硯ひがしのぞき、行道石ぎやうだういし、千手瀧せんじゆのたき〔一の瀧をいふ〕五光瀧くわうのたき〔二の瀧をいふ、東向にして巖を添うて落る、

每朝旭に映じて光りをなす〕降三世瀧かうさんぜのたき、鐘懸かねかけ、胎内潜たいないくまり、登岩のぼりい、仙人窟せんじんくつ、石塔岩せきたふい、舍利石しゃりいし、仏岩ほとけい、水晶山すゐしやうざん、熊倉くまくら、黑白岩こくびやくい、

安住岩、天狗岩、亀石、兜率瀧、老瀧、加持水、馬足洗水、養生芝〔元弘元年九月、後醍醐天皇笠置の城没落の時、此所まで逃のび給ひて、歩煩ひしばしとゞまりて養生し給ひけるとなり〕抑此山は山城の高山にして、北の方は帝城繞圀の山々、中にも比叡愛宕の嶺高く聳え、右手の方には琵琶湖の漫々たる水面雲に連り、三上鏡の翠巒は旭に鮮なり。弓手のかたは志貴伊駒金剛山、蒼天には西海の海原、兵庫の洲崎淡路島山見れ、あるひは摩耶六甲山の高根も、只此嶺より一眼の中に遮りて双眸の客となりぬ。衆山に秀て、巖頭嶮々として樵夫も路を歩しかね、老杉繁茂しては白日を埋んで闇し、李白が大姥の吟に、五嶽を支し天台の四方八千丈もこゝに相對すべし。